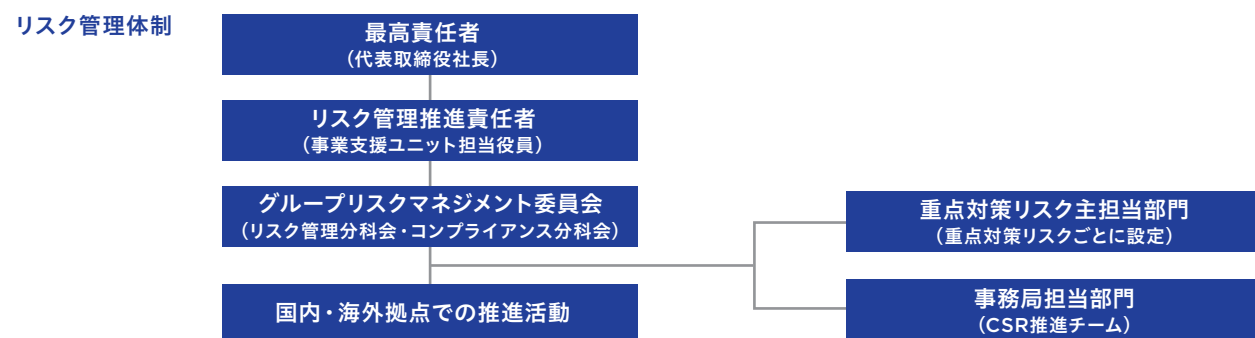


ガバナンス

リスクマネジメント

東洋アルミでは、代表取締役社長を最高責任者とする全組織的リスクマネジメント体制を構築し、リスク管理推進責任者が委員長を務めるグループリスクマネジメント委員会を運営しています。リスクマネジメントの効果的な推進のために、リスク管理分科会およびコンプライアンス分科会を設け、推進メンバーによる活動を行っています。また、リスクアセスメントを通じて選定した重点対策リスクカテゴリーに主担当部門を設置し、主担当部門は専門的知見により3ラインモデルにおける第2ラインの役割として、業務担当部門への支援・モニタリングを実施しています。業務プロセスリスクへの対応としては、各業



コンプライアンス推進

東洋アルミでは、法令遵守のみならず社会規範や企業倫理を含めた広義のコンプライアンス推進を実施しています。法令遵守においては、法的リスクを重点対策リスクカテゴリーのひとつと捉えて全社的なリスク抽出および改善進捗の把握を行っています。また、ハラスメント防止などをテーマに各職場における定期的なコンプライアンスミーティングを実施し、職場から上がってきた意見や取組み状況を記録し、各事業所の管理職層が内容を確認しています。コンプライアンス

務部門における日常的なリスクマネジメントとして、業務プロセス3点セットの整備と自己点検の実施を行っています。リスクマネジメントに関する活動内容は、グループリスク管理規程に基づき、グループリスクマネジメント委員会の委員長から経営層に報告されます。2024年度のマネジメントレビューの結果、社会的な要請の高まりを受けて、サプライチェーン上の人権リスクを、重点対策リスクカテゴリーとして追加し、事業支援ユニットを担当部門としてリスク抽出と低減活動を行っていますこととなりました。

に関する課題把握のために社内の相談ラインを整備し、コンプライアンスミーティングの場を活用して周知しています。

2024年度は、経済産業省および中小企業庁が推進する、下請け中小企業振興法の振興基準に関して、外部講師を招いて社内講習会を行い、国内関係会社を含めて160名が受講しました。2025年度は法改正に関する社内周知や、確実なコンプライアンスミーティングの実施を重点活動テーマとして取り組んでいきます。

担当役員コミットメント

現代においては社会情勢や環境が日々大きく変化し、企業内外にさまざまなリスクが顕在化する「不確実性の時代」とも言われています。また、社会やビジネス環境における変化のスピードが増すことで将来の予測が困難になり、リスクマネジメントの重要性が非常に高まっています。このような多くのリスクと隣り合わせの状況において企業活動を行うにあたり、私たちは将来の戦略や事業目標の達成に影響を与える可能性をリスクと捉えて、昨年度より全組織的リスクマネジメントの体制を確立しました。グループリスクマネジメント委員会が中心となり、重点対策リスクカテゴリーに対するリスク低減活動を網羅的に集約した情報や活動計画について、経営層のみならず従業員に対しても積極的に社内開示することで、リスクマネジメントの強化とあわせて社内のコンプライアンスに対する意識向上も図っています。経営と一体になったリスクマネジメント体制の構築・運営により企業価値を高め、ステークホルダーの皆さまにご安心いただけるように引き続き取り組んでまいります。

辻野 雅佳

辻野 雅佳
執行役員
内部監査チーム、グループ安全統括チーム
並びにコーポレート部門事業支援ユニット担当

コーポレートガバナンス強化に向けた取組み

東洋アルミでは、ここ数年間でサステナビリティ委員会の設置、コンプライアンス体制、リスク管理体制の整備など、コーポレートガバナンス強化を進めてきました。東洋アルミ内部監査部門としては、J-SOX対応を含む重要な業務とともに、以下の3つの重要な取組みを行うことにより、コーポレートガバナンスの支援を進めて行きます。

①不正抑止ヒアリング

不正を許さない企業風土を育成するため、従業員から不正リスクに関するヒアリングを定期的を実施しています。このヒアリングを通じて、会社に対する不平・不満を聞き出し、不正リスクの早期発見と防止策の実施、職場環境の改善を目指しています。

②テーマ監査

リスクマネジメント委員会や不正抑止ヒアリング[※]で明らかになったリスクに対して、優先度を設定し、特定のテーマに基づいて監査を行います。

③法的リスク対応

確認されたリスクの中から法的リスクを抽出し、関連する教育と訓練を実施しています。

これらの取組みを通じて、企業全体の透明性と信頼性の向上を図っています。

コーポレートガバナンス体制

